

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年3月31日

事業所名 ケアステッキず精華

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	休養スペースや相談室を設けている	過ごしやすい(相談しやすい)環境設備にする
	2 職員の配置数は適切である	80%	20%	適切である	急な欠員等にも対応出来るよう対策を検討する
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	玄関はスロープ、室内はバリアフリー、エレベーターも設置している	バリアフリー化だけでなく配置物等も危険のないよう配置出来ているか見直す必要がある
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	80%	20%		不十分であるため今後参画出来るようにしていく
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	80%	20%		改善されていない点もあり今後の課題とする
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	80%	20%	HP上に公開している	HPがあることをお知らせしているが周知されていないため多くの利用者に見てもらえるためにはどのようにするか今後の課題とする
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	80%	20%		昨年は実地指導があり結果を業務改善につなげている
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80%	20%	研修を実施している	実施しているが十分ではないため定期的に開催出来るようにしていく
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	カンファレンスに参加している	カンファレンスやモニタリングを通して計画書を作成しているが家族の思いもしっかりと取り入れ作成をしている
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	記録ソフトに付属しているアセスメントツールを使用している	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	80%	20%		不十分であるため今後の課題とする
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	80%	20%	決まったプログラムはなく日々考え実施している	重症度別のプログラムも作成していく
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	個々に応じた支援を実施している	個別のプログラム等がないため必要か検討し今後の課題としていく
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個々に応じた支援を実施している	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	その日の送迎、入浴担当、調理担当が分かるように表にしている	出勤時間にばらつきがあり送迎で全員揃わないことから個々でその日の役割を確認しているが確実に確認できるような対策が必要である
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	80%	20%		同上
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	日々記録を残している	記録ツールを使用し残しており話し合い等が必要な場合は以前の記録を見返している
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	利用者毎に担当を決めモニタリングを実施している	職員によってモニタリングの項目にばらつきがみられるため勉強会を検討していく
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	80%	20%	ガイドラインに基づき、自立支援と日常生活を支援するために複数組み合わせ支援をしている		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	医療ケア児は看護職員が参画している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	学校迎え時に必ず情報共有をしており、不明点は電話で聞く等実施している	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	0%	指示書、同意書は必ず提出してもらい緊急時連絡先は全員に提出を依頼している	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	可能な限りは情報収集をしている	全員が実施出来ていないため出来るよう対策をする
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	カンファレンスを通して情報提供をしている	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%		現状では出来ていない為今後必要時は研修等に参画出来るようにしていく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	60%	40%		現状では出来ていないため今後参画出来るようにしていく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	60%	40%	参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時や電話で情報共有をしている	しっかりと意見交換が出来る場を提供できるようにしていく
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	60%	40%		現状では出来ていないため必要時に実施出来るようにしておく必要がある
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時には説明している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	60%	40%		送迎時の会話の中で悩み等あれば傾聴し、その場で解決出来ないことは持ち帰り相談しているが積極的に出来ていないため、今後は相談しやすい環境を整える
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	60%	40%		現状では出来ていないが実施している他事業所からも情報をもらい実施出来るよう検討する
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情があった際は全員で周知し対応している	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	60%	40%	HPIに発信している	定期的に更新出来ておらず今後の課題とする
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	契約時には書面、口頭で説明し十分に注意している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	60%	40%	カードやサイン等を使用し個々に対応している	改善点もあるため充実した意思疎通が出来るよう今後の課題とする
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	20%	80%		現状では出来ていないが必要時に再検討していく

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	60%	40%	マニュアルを作成している	全員が周知出来ていないため今後の課題とする
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	80%	20%	マニュアルを作成している	定期的に実施出来ておらず今後課題とする
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	80%	20%	マニュアルを作成している	日々の業務中でも確認をしているが定期的には研修は実施出来ていないため今後の課題とする
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	契約時には説明している	拘束は実施していないが送迎時に使用しているキャロットが身体拘束になる場合は説明をしているが計画書には記載出来ていない
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	アレルギー表を作成し随時確認出来る様にしている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	20%	ファイルを作成している	ヒヤリハットは事故を防ぐ為にも必要であるがいない方が良いと思っている職員もいるため報告書関連の研修も必要である